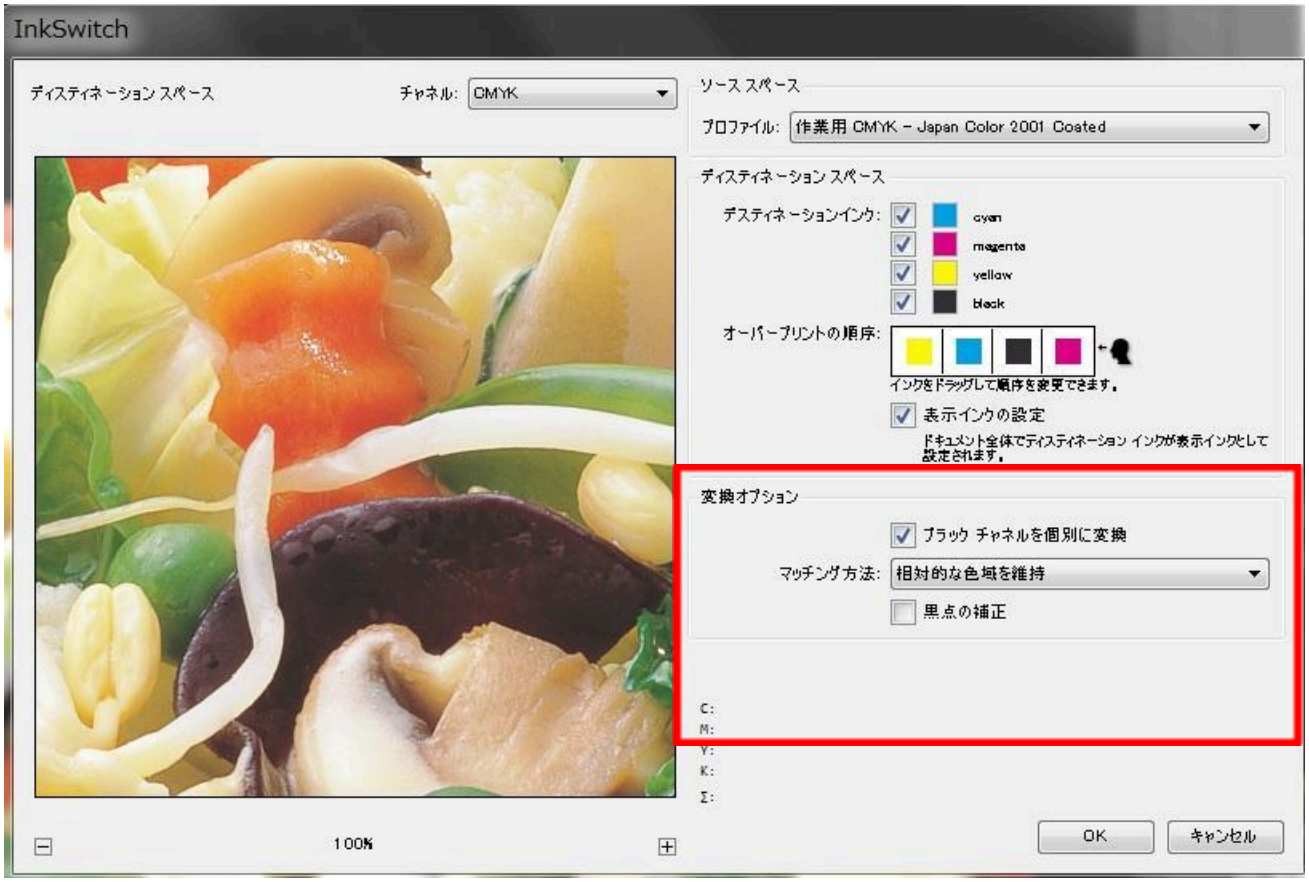
InkSwitch変換オプション



・ブラックチャンネルを個別に変換
このオプションをオンにすると、InkSwitchはブラックチャンネルをその他3つのチャンネルから独立した形で変換します。

マッチング方法
・「相対的な色域を維持」
白色点をまず合わせ、さらに色域外の色を中に収めるとともに、色域の限界付近の色をずらすことで階調をできるだけ維持しようというものです。元の色に一番近い仕上がりになりますが、色域の限界付近に色が詰め込まれるためそのあたりの階調が不足気味になります。これを防ぐためには「黒点の補正を使用」オプションをオンにします。
例：印刷機でクリーム色をカード用紙に印刷する一方、プルーファー（校正刷り用印刷機）で明るい白紙に印刷する場合で、校正刷り上のクリーム背景をシミュレートしたくない場合





・「絶対的な色域を維持」
このマッチング方法では、色間の関係の保護よりも、色の正確さが重視され、特定のデバイスの出力を擬似的に表すプルーフィングに最適です。このマッチング方法は、用紙の色が印刷される色にどのような影響を及ぼすかをプレビューする場合に特に効果的です。





・「知覚的」
入力色空間より出力色空間のほうが小さい場合は縮小されます。明度（明るさ）の維持を優先するため、彩度や色相が若干変化します。出力色空間のほうが大きい場合は色はそのままです。

- メリット：自然な発色になる

- デメリット：写真によっては彩度が低くなってくすんでしまうことがある。

このレンダリング目的は、主に商業印刷（新聞、雑誌、ポスター等）で用いられます。

・「彩度」
色の正確さよりも、画像の鮮明な色を再現することを重視します。このマッチング方法は、色間の正確な関係よりも、明るい色使いが求められるグラフや図表など、仕事で使用するグラフィックに最適です。

黒点の補正
［黒点の補正］を使用すると、本来のカラー値を維持するのではなく、濃度差のバランスを優先します。したがって、同じカラーであっても、濃度差が違ってくることなります。しかし、シャドウ部が潰れて階調が失われるより、濃度差のバランスを再現する方が仕上がりとしては自然になります。
効果としては、広いカラースペースから狭いカラースペースに変換したときに、
チェックを外すと → シャドウ部分の階調が乱れ、黒くつぶれてしまうことがある。
チェックを入れると → シャドウ部分の階調変化を均等に維持することが出来る。（ほとんどの場合良い結果をもたらすが、稀にシャドウが明るくなりすぎる場合もあり得る）